

The Tricontinental
APRIL 13, 2023

IMF 発のウソの数々

So Much Lying from the International Monetary Fund

<https://thetricontinental.org/newsletterissue/debt-imf/>

By Vijay Prashad

リード

Vijay Prashad は言う。「南半球の貧しい国々は新たな資金調達的手段を模索し始めた。本物の開発理論に基づいたプロジェクトを推進するためにはそれが必要だ」

本文

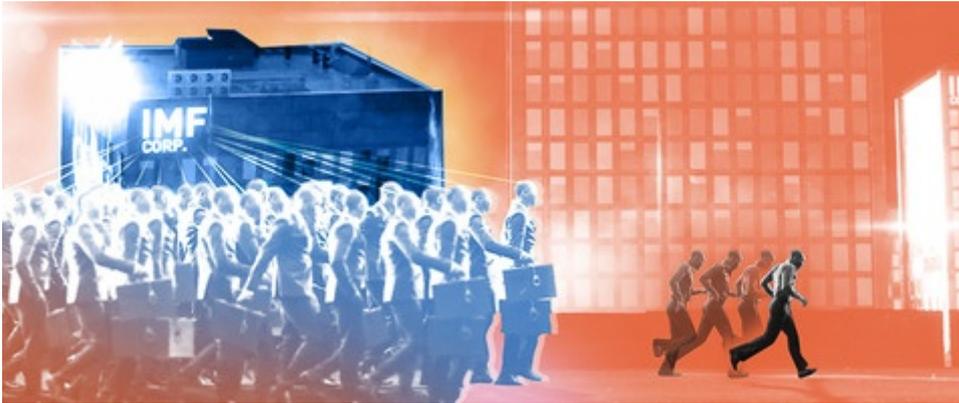
カマラ・ハリス副大統領の空手形

驚くべき報道が流れた。3月下旬にガーナを訪問したカマラ・ハリス米副大統領は、次のように発表した。

- * 米国財務省技術支援室が「2023年にアクラに常駐顧問を配置する」
 - * 財務省は常駐顧問を通じて中長期的な改革を立案し、その執行を支援する。
 - * これらの措置により、債務に持続可能性を持たせ、競争力のあるダイナミックな国債市場を支える。
- ガーナはたしかに、この分野で大きな課題を抱えている。対外債務が360億ドル、国内総生産に対する債務比率が100%を超えている。

ロイター通信はこれについて、ガーナがバミューダを拠点とする金融アドバイザー、ラザードと代理人契約を結んだと報じた。ラザードはパリを拠点とするロスチャイルド社との協議に入る。ロスチャイルド社は、ガーナ最大の債権者である国際債権者グループの筆頭代理人である。

なんと有り難いことか、米国政府は、これらの裕福な債権者たちに、債務の一部を帳消しにする（いわゆる「ヘアカット」）あるいは債務返済のモラトリアム延長を働きかけるのではなく、ガーナに「技術顧問」を提供したに過ぎないのだ。



12月、ガーナはIMFの拡大信用枠を通じて、3年間で30億ドルを受け取る契約に調印した。その見返りとして、「国内資源動員の増加と支出の合理化」を含む「広範な経済改革プログラム」を受け入れた。ガーナ政府は自国民に対して緊縮財政を行うことになった。

この合意の時点で、ガーナのインフレ率は54.1%まで上昇していた。2023年1月には、電気、水道、ガスと言った公共価格、そして住宅価格が1年間で82.3パーセントも上昇した。

世界銀行の試算では、ガーナの貧困率はすでに23.4%に達していた。貧困率の上昇は、電気・水道料金の値上げや食料品価格の上昇、それに消費税増税の累積的影響によるものであり、それは「わずかな増加」にとどまると予測された。

国内債務の再編によってもたらされる公共支出の削減は、ガーナの約3,300万人のほぼすべての人々にとって「絶望」を意味する。

米国政府の「常勤常駐アドバイザー」に期待できることはなにもない。彼らが、永久的な債務危機事態と化したガーナ経済への評価をおこない、現実的な解決策を提示することはないだろう。

ガーナのユーロ債130億ドルのうち、かなりの部分を占めるのがユーロ債である。英国のAbrdnやAmundi、米国のBlackRockをはじめとする債権者がそれに該当する。彼らが事態解決の計画立案に当たって焦点とならないことは、最初から明らかである

中国はガーナの対外債務の10%未満しか保有していない。それなのに米国は、「中国のためにガーナ経済が破壊されつつある」と非難するのは安易な責任転嫁である。

ガーナのナナ・アクフォ＝アドゥ大統領はハリス副大統領にこう言った。

「アメリカでは（アフリカ）大陸での中国の活動に対して強迫観念があるようだ。しかしここではそんな恐怖感はない」

新植民地主義はアフリカを束縛し、我々はアフリカ開発の代替案を模索する

私たちの「三大陸」誌の最新号では、「生命か負債か：新植民地主義はアフリカを束縛し、我々はアフリカ開発の代替案を模索する」と題する記事を載せている。そこでは、永続的な債務危機に苦しむ国々への実践的な政策提案を行っている。

そこには

* 累進的な税制の構築、* 国内銀行インフラの改革、* IMF の債務緊縮の罫に代わる資金源の構築、* 地域主義の強化などの提案が含まれている。

IMF や世界銀行というシステムが、自分たちの正統性から逸脱した国を容赦なく罰することを考えれば、わずか 10 年前といえども、このような政策は考えられなかった。



今では、欧米に代わる開発資金源が到来しつつある。確かにそれは主に中国からだが、Global South の他の国々からもやってきている。

その結果、貧しい国々が、自主的な開発理論に基づいた独自の国家的・地域的計画を構築する可能性が開かれたのだ。

前号で書いた通り、

「開発計画は、資金調達を一度ならず数回にわたりとらえなければならぬ。また、IMFの力の隙間を突いて、財政・金融政策を推進する必要がある。

そのようにしてアフリカの人々の抱える問題を解決することが計画の骨子となる。それが裕福な債券保有者とそれを支援する欧米諸国の要求に屈しないための条件である」

アフリカ政治経済共同体（CAPE）が発表した「IMFは絶対に答えではない」と題する声明から、私たちの資料の根拠となる原則が生まれた。

この声明は、「競争ではなく協力を促進する新しい種類の制度的装置」の必要性を指摘した。その中には「米ドルをバイパスする通貨制度の確立」も含まれている。

なぜ、脱ドル化がこれほど重要なポイントなのか。この問いに対して、米国上院議員マルコ・ルビオほど明確な洞察を示した人物はいない。

彼は言った「5年後には制裁について話す必要はなくなる。ドル以外の通貨で取引する国が多数となり、我々には制裁する能力がなくなるからだ」

CAPE声明が指摘するように、ドルへの依存は米国による制裁を可能にするだけではない。それはなによりも「IMFの条件付けの強力なレバー」なのだ。

また声明は、「アフリカ国家の開発課題を実現するためには、そのための能力と自律性を回復し、再活性化することが急務である」と指摘している。これには、国家が税収を動員し、その資金を自国民の尊厳を築くために使う能力を高めることが含まれる。

現代における開発を考える場合、まずは各国の主権を尊重した新しい形の開発資金調達を図らなければならない。それとともに、資金調達における国家機関の役割ももう一度考えなければならない。

世界銀行と BRICS 銀行（新開発銀行）

4月中旬の世界銀行総会では、シティグループとマスターカードの元幹部であるアジャイ・バンガ氏が総裁に任命される予定となっている。1946年に初代総裁が任命されて以来、14人目の米国人総裁となる。

バンガは開発の世界での経験がない。商業銀行の前は、米国のファーストフードフランチャイズ「ピザハット」と「ケンタッキーフライドチキン」のインドでの立ち上げに携わっていた。

一方、BRICS 銀行と呼ばれる新開発銀行は、新総裁にブラジルの前大統領であるディルマ・ルセフ氏を選出しました。ルセフ氏は、ブラジルの絶対的貧困撲滅プログラムにおける豊富な経験をもって、BRICS 銀行にやってくる。民営化という宗教を推進するバンガ世銀新総裁とは異なり、ルセフ氏は、所得移転プログラム「ボルサ・ファミリア（家族手当）」や社会保護プログラム「ブラジル・セミセリア（極貧のないブラジル）」といった強固な国家政策に取り組んできた。新しい職場ではこれらの経験を生かすことになる。

資料にもあるように、BRICS 銀行の出現は、南半球の他の機関とともに、すでに IMF や世界銀行に圧力をかけ始めている。

とりわけ

* 新自由主義的な債務緊縮モデルの押し付けは無限定なのか、そこには限界があるのか。

* 政府が国家の主権と住民の尊厳を高めるためには、最低限資本からの独立と、資本への規制とコントロールが必要だが、そのための新たなツールは必要なのか、

などに関して意味のある回答を求めている。

『始まりのための長い道のり』

10 年前、ナイジェリアのミュージシャン、セウン・クティがアルバム『始まりのための長い道のり』というアルバムを発表した。その中に「IMF」という曲がある。

[Seun Kuti - IMF ft. M1 \(from Dead Prez\)](#)

この曲は IMF の政策を痛烈に批判したもので、ジェローム・バーナードが監督したビデオでは、アフリカのビジネスマンが買収され、最後にはゾンビになってしまう。その過程を通して IMF 批判が展開されている。

ミダス王が物に触れると、金に変わる。IMF が人に触れると、人はゾンビになる。

この論文に挿入された図は、Seun のミュージックビデオのイメージに基づいている。この曲は催眠術のようだ。

ピープルパワー

IMF は嘘ばかりだ

ピープルパワー

IMF はこれだけ盗む

ピープルパワー

IMF はこれだけ殺す

ピープルパワー

IMF はだまし続ける

ピープルパワー

IMF は脅し続ける

ピープルパワー

IMF は犠牲を押し付ける

ピープルパワー

.....

Vijay Prashad は、インドの歴史家、編集者、ジャーナリストです。
Globetrotter の執筆者兼通信員。LeftWord Books の編集者であり、「三大
大陸」研究所の所長である。中国の重陽金融研究院上級研究員。

(訳 SS)